

香川大学教育学部からの出前講座⑦（1年）

を実施しました

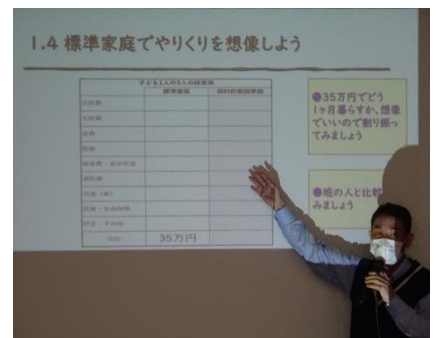
11月10日、香川大学教育学部から小方直幸先生をお招きし、「子どもの貧困」という演題で、教育創造コースの1年生にご講義いただきました。

目標：教育学が扱う「子どもの貧困」と「格差」を例に、貧困の実態を知り、教育や学校が果たす役割を考えること

テーマ：日本は豊かな国？ それとも経済的な格差が大きく、貧困が深刻な国？

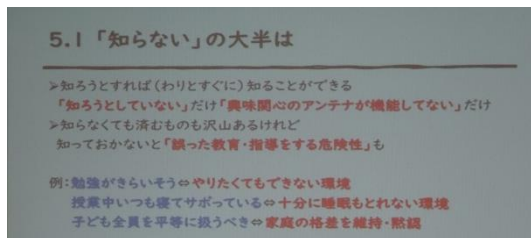
日本の1世帯あたりの平均可処分所得は420万円、月額でいうと35万円程度

●相対的貧困の実際の定義と貧困率の推移 ●学校での成績や進路にどの程度影響するか



知ることとはスタートでしかないけれど、最大の問題は知ろうとしないこと

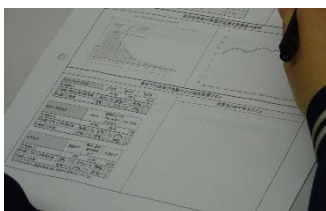
●貧困問題を正しく知るために ●子どもの表面的な姿だけ見て判断しない



学校の存在意義は？

Aさん「貧困は経済問題、学校は貧困問題に対して無力」

Bさん「学校がないと貧困による格差はさらに拡大する」



今日は、日ごろとは違った観点から「教育」を考えました。「子どもの貧困」や「格差」の問題に対し、教育や学校は何ができるでしょうか。教師は子どもに、どう関わるべきでしょうか。

「教育問題を考えることは社会を考えることです。そして教育は社会の要です。」という小方先生の言葉が胸に響きました。本日は、大変重要な観点をお教えいただき、大変ありがとうございました。